

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	九州国際大学
設置者名	学校法人九州国際大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計			
法学部	法律学科	—	14	—	14	28	13	—	
現代ビジネス学部	地域経済学科	—		4	—	18	36	13	—
	国際社会学科	—			—	12	30	13	—
経済学部	経済学科	—		—	—	—	14	13	—
	経営学科	—			—	—	14	13	—
国際関係学部	国際関係学科	—		—	—	2	16	13	—
(備考) 経済学部及び国際関係学部は平成29年4月より学生募集を停止し、現代ビジネス学部を設置(届出)した。									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

実務経験のある教員等による授業科目の一覧を大学ホームページ上に掲載し、公表する。 http://www.kiu.ac.jp/about/disclosure/

3. 要件を満たすことが困難である学部等 【該当なし】

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	九州国際大学
設置者名	学校法人九州国際大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大学ホームページ掲載
<http://www.kiu.ac.jp/about/houjinabout/position/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	企業顧問	令和元年 6月5日～ 令和4年 6月4日	学校法人運営に、卒業生の視点、意見を採り入れ、管理運営機能の充実を図る。
非常勤	企業役員	令和元年 6月5日～ 令和4年 6月4日	同上
非常勤	企業役員	令和元年 6月5日～ 令和4年 6月4日	学校法人運営に、学識経験者の専門知識、実務経験に基づく意見を求め、管理運営機能の充実を図る。
非常勤	元企業役員	令和元年 6月5日～ 令和4年 6月4日	同上
非常勤	弁護士	令和元年 6月5日～ 令和4年 6月4日	同上
非常勤	元国会議員	令和元年 6月5日～ 令和4年 6月4日	同上
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	九州国際大学
設置者名	学校法人九州国際大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画書(シラバス)は、教務委員会において開講前年度の9月以降に次年度開講科目の調整を行った後、シラバス作成要領等の検討を行っています。</p> <p>その後、1月に教員は各項目における記入上の注意事項等を纏めた「シラバス作成について(記載要領)」に基づいて、KIUポータルに学生が理解しやすいように作成することとしています。</p> <p>各科目担当教員が授業計画書(シラバス)を作成したのち、教務部長及び教務委員が記載内容等について確認を行い、3月に公開しています。</p>	
授業計画書の公表方法	http://www.kiu.ac.jp/campuslife/syllabus/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>授業科目の履修については、各授業の初回に科目担当者が、授業計画書(シラバス)を履修者全員に配布し、授業科目の到達目標と成績評価基準の説明を行い、履修が完了します。</p> <p>単位授与については、授業計画書(シラバス)に示された試験やレポート等の評価方法により、厳格な成績評価を行っています。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

学則及び修学規程において、GPAについて規定しており、GPAの算出方法については、以下のとおりです。

【成績評価とGPA】

評価	グレードポイント	成績	可否区分
AA	4	90点以上	合格
A	3	80点～90点未満	
B	2	70点～80点未満	
C	1	60点～70点未満	
F	0	60点未満	不合格
失格、欠席	0		

【GPAの算出方法】

$$\frac{AA \text{ の合計単位総数} \times 4 + A \text{ の合計単位総数} \times 3 + B \text{ の合計単位総数} \times 2 + C \text{ の合計単位総数} \times 1}{\text{全履修登録単位数 (「F、失格、欠席」を含む)}}$$

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<http://www.kiu.ac.jp/campuslife/basic/>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、以下のようにディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）を策定しています。</p> <p>本学の建学の理念である「塾的精神」による人材養成を基本理念とし、学則第1条に定める北九州の地域に立脚し、国際的視野を持った理論・実践両面に明るい人材を養成することを目的としています。本学の課程を修め、124単位の単位取得と必修等の条件を充たした上で、以下の項目を体系的に修得した者に学位を授与します。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>①人文社会自然科学を基礎とした幅広い教養を身につけている。</p> <p>②学位の専攻分野の専門的知識と技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>③幅広い教養と専門分野の知識から論理的に考える能力を修得しており、その知識を使って現代社会の問題を分析し考察することができる。</p> <p>④現代社会の多様なフィールドにおける諸課題の解決に向けて、的確な学際的考察及び総合的判断ができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>⑤現代社会の諸課題に対して自ら積極的に関心をもち続け、現代社会に貢献することができる。</p> <p>⑥グループで協力しながら問題を解決する態度、生涯学び続け成長し続ける意欲を修得している。</p> <p>【技能・表現】</p> <p>⑦必要な情報を幅広く収集し、的確に整理・分析することができる。</p> <p>⑧グローバル化した現代社会において、活躍できる高度なコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>ディプロマ・ポリシーは、本学大学ホームページ上に掲載しているほか、大学案内、募集要項、入学後学生に配布される学生便覧等に掲載し、周知しています。</p> <p>ディプロマ・ポリシーに示した能力を卒業生が修得できているか、教育課程表が適切に機能しているか点検・評価するために、アセスメント・ポリシーを策定しています。</p> <p>本学の卒業要件については、全学部とも、本学に4年以上在学し、各学部の教育課程に従い、124単位以上を修得しなければなりません。</p> <p>卒業判定については、卒業要件を充足した学生について、教務委員会において対象者の原案を作成し、教授会で意見を聴取したうえで、学長が卒業を認定し、卒業証書・学位記を授与しています。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/policy/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	九州国際大学
設置者名	学校法人九州国際大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.kiu.ac.jp/about/houjinabout/report/
収支計算書又は損益計算書	http://www.kiu.ac.jp/about/houjinabout/report/
財産目録	http://www.kiu.ac.jp/about/houjinabout/report/
事業報告書	http://www.kiu.ac.jp/about/houjinabout/report/
監事による監査報告(書)	http://www.kiu.ac.jp/about/houjinabout/report/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:学校法人九州国際大学事業計画書 対象年度:令和元年度)
公表方法: http://www.kiu.ac.jp/about/houjinabout/report/
中長期計画(名称:学校法人九州国際大学第三期中期経営計画 対象年度:令和元年度~令和5年度)
公表方法: http://www.kiu.ac.jp/about/houjinabout/managementplan/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/tenken/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/tenken/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 法学部 法律学科
教育研究上の目的 (公表方法: http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/spirit/)
<p>(概要)</p> <p>法学部は、法律の専門的・体系的知識に基づく法的思考力を修得させ、もって理論実践両面に明るい人材を養成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法学部法律学科は、法律の専門的・体系的知識に基づく法的思考力を修得させるとともに、フィールドワークを通じて実践力を獲得させ、もって地域の行政・企業分野において実務を遂行できる人材、及び企業活動に積極的に関与できる法律のプロフェッショナルを養成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/policy/)
<p>(概要)</p> <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①人文社会自然科学を基礎とした幅広い教養を身につけている。 ②法律学の専門的知識及びその活用方法を身につけている。 <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ③リーガルマインドに基づき、基礎的な法律の知識から論理的に考える能力を修得しており、その知識を使って現代社会の問題を分析し考察することができる。 ④現代社会の多様なフィールドにおける諸課題の解決に向けて、的確な学際的考察及び総合的判断ができる。 <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑤現代社会の諸課題に対して自ら積極的に関心をもち続け、現代社会に貢献することができる。 ⑥グループで協力しながら問題を解決する態度、生涯学び続け成長し続ける意欲と態度を身につけている。 <p>【技能・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑦自己の思考・判断のプロセス及び結果を他者にわかりやすくプレゼンテーションできる。 ⑧良好な人間関係を構築するためのコミュニケーション能力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/policy/)
<p>(概要)</p> <p>本学科では、定められたディプロマ・ポリシーを達成するため、以下のように教育課程を編成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 共通教育科目では、教養教育を担うため全学部共通で設定しており、大学での学修の基礎となる知識やスキル、そして豊かな人間性と高い教養を身につけるべく、4つの科目群に区分します。 (2) 専門教育科目では、専門教育科目を専門科目群、特殊講義科目群、リスクマネジメント科目群、資格講座科目群、関連科目群、演習群の6つに科目群区分します。 <ul style="list-style-type: none"> ①専門科目群では、学生に学年を追って段階的に科目同士の関連性や法的体系性を認識させ、その関連性・体系性から導かれる法的論理力・思考力を涵養させるべく、「憲法Ⅰ・Ⅱ」、「法律学入門Ⅰ・Ⅱ」、「民法総則Ⅰ・Ⅱ」等を配置します。また、「物権法」、「債権総論」等の民法をはじめ、「刑法総論」等を配置します。さらに、プレゼンテーションや協働能力の向上のために、「キャリアチュートリアルⅠ～Ⅳ」を配置します。本科目群は、DP (知識・理解) / (思考・判断) / (関心・意欲・態度) / (技能・表現) に強く関連します。 ②特殊講義科目群では、専門科目群だけでは不十分な法律科目の学習を補助する科目や法律に限らない特殊な内容を学ぶための「法政特殊講義1～8」を配置します。本科目群は、DP (知識・理解) / (思考・判断) / (関心・意欲・態度) に強く関連します。

<p>③リスクマネジメント科目群では、「リスクマネジメントコース」に所属する学生が、将来の進路に応じて、リスクマネジメントの知識を入門から実践まで体系的に学ぶことができる科目を配置します。本科目群は、DP（知識・理解）／（思考・判断）／（関心・意欲・態度）／（技能・表現）に強く関連します。</p> <p>④資格講座科目群では、「資格取得コース」に所属する学生が、関心や将来の進路に応じて、資格取得を目指すことができる科目、「法職資格講座1～5」を配置します。本科目群は、DP（知識・理解）／（思考・判断）／（技能・表現）に強く関連します。</p> <p>⑤関連科目群では、教員免許取得に必要な科目やコミュニケーションスキルを養うための科目等を配置します。本科目群は、DP（知識・理解）／（技能・表現）に強く関連します。</p> <p>⑥演習群では、それまで修得できた知識やスキルを統合するとともにコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、課題発見力、課題解決力等を養成するため、「専門演習A・B」を配置します。本科目群は、DP（知識・理解）／（思考・判断）／（関心・意欲・態度）／（技能・表現）に強く関連します。</p> <p>(3) 特別教育科目は、学生の将来の進路を支援するために特別に置かれている科目です。「スポーツ特別教育科目」を体系的に配置します。本科目は、DP（知識・理解）／（思考・判断）／（関心・意欲・態度）／（技能・表現）に強く関連します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p>【知識・技能】</p> <p>①高等学校の教育課程を幅広く修得している。</p> <p>②高等学校までの「国語総合（現代文）」や「英語」の履修を通じて、基礎的なコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>③現代社会の問題について、知識や情報をもとに筋道立てて考え、その内容をわかりやすく表現できる。</p> <p>【主体性・協働して学ぶ態度】</p> <p>④クラブ活動、委員会活動や社会奉仕等を通じて、多様な人々と協働して主体的に学ぶ姿勢を身につけている。</p> <p>⑤法律学の知識やリーガルマインド及び学内外での様々な体験を社会で活かしたいという目的意識と意欲がある。</p>

学部等名 現代ビジネス学部 地域経済学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/spirit/ ）
<p>（概要）</p> <p>現代ビジネス学部は、21世紀の社会を展望し、グローバル化の進む世界や地域のビジネス組織、すなわち企業、自治体、民間団体などで活躍できる豊かな教養と知識を有する人材を養成する。</p> <p>・現代ビジネス学部地域経済学科は、経済学や経営学に関する基本的な知識を身につけ、企業や地域の組織体での就労を通して産業や地域社会に貢献する中堅的な人材を養成する。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/policy/ ）
<p>（概要）</p> <p>【知識・理解】</p> <p>①人文社会自然科学を基礎とした幅広い教養を身につけている。</p> <p>②経済学や経営学の専門的知識及びその活用方法を身につけている。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>③ローカルな視点とグローバルな視点を併せ持ち、現代の経済、社会、文化について論理的に考えて分析し考察することができる。</p> <p>④現代社会の多様なフィールドにおける諸課題の解決に向けて、的確な学際的考察及び総合的判断ができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>⑤地域社会の諸課題に対して自ら積極的に関心をもち続け、地域社会に貢献することができる。</p> <p>⑥多様な人々との交流、連携、協働を通じて、社会人として成長し続ける意欲と態度を身につけている。</p> <p>【技能・表現】</p> <p>⑦自己の思考・判断のプロセス及び結果を他者にわかりやすくプレゼンテーションできる。</p> <p>⑧良好な人間関係を構築するためのコミュニケーション能力を身につけている。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/policy/ ）
<p>（概要）</p> <p>本学科では、定められたディプロマ・ポリシーを達成するため、以下のように教育課程を編成します。</p> <p>(1) 共通教育科目では、教養教育を担うため全学部共通で設定しており、大学での学修の基礎となる知識やスキル、そして豊かな人間性と高い教養を身につけるべく、4つの科目群に区分します。</p> <p>(2) 専門教育科目では、専門教育科目を基礎科目群、基幹科目群、コース科目群、関連科目群、演習群の5つに科目群区分します。</p> <p>①基礎科目群では、グローバル化の進む経済社会、地元北九州の地域特性についての知識を修得させるために、「グローバル経済と生活」、「北九州学」を必修として配置します。また、PBL型の教育により地域の諸課題の解決策を学生に考えさせることで課題発見力、プレゼンテーション能力、課題へのアプローチ方法、実践力等を身につけるべく、「プラン&プラティクス」を配置します。本科目群は、DP（知識・理解）／（思考・判断）／（関心・意欲・態度）／（技能・表現）に強く関連します。</p> <p>②基幹科目群では、経済学の基礎科目である「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」、「地域経済論入門」を学科の必修科目として配置します。さらに経営学的な思考も修得させるために「経営学」、「簿記論」、「経営組織論」等を配置し、経済・経営の各学問領域における専門的基礎知識を体系的に修得します。本科目群は、DP（知識・理解）／（思考・判断）／に強く関連します。</p> <p>③コース科目群では、地域社会の具体的な問題解決を行い、各学問領域における専門知識を現場で応用できるよう、各学科で必要とされる専門科目を必修化し、それに関連する科目を学問系列ごとに分けて5つのコース科目として配置します。学生は</p>

<p>5つのコース「経済コース」、「経営コース」、「地域づくりコース」、「観光ビジネスコース」、「スポーツマネジメントコース」のいずれかに所属します。なお、所属のコース科目で生まれた新たな関心・意欲に応え、幅広い学問領域における専門知識を体系的に修得するため、他のコース科目の履修を推奨します。本科目群は、DP（知識・理解）／（思考・判断）／（関心・意欲・態度）に強く関連します。</p> <p>④関連科目群では、教員免許取得に必要な科目やコミュニケーションスキルを養うための科目等を配置します。本科目群は、DP（知識・理解）／（技能・表現）に強く関連します。</p> <p>⑤演習群では、それまで修得できた知識やスキルを統合するとともにコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、課題発見力、課題解決力等を養成するため、必修科目として「専門演習Ⅰ～Ⅳ」を配置し、学修の集大成として「卒業研究」を配置します。本科目群は、DP（知識・理解）／（思考・判断）／（関心・意欲・態度）／（技能・表現）に強く関連します。</p> <p>(3) 特別教育科目では、学生の将来の進路を支援するために特別に置かれている科目です。「スポーツ特別教育科目」を体系的に配置します。本科目は、DP（知識・理解）／（思考・判断）／（関心・意欲・態度）／（技能・表現）に強く関連します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 （公表方法：http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/policy/）</p>
<p>（概要）</p> <p>【知識・技能】</p> <p>①高等学校の教育課程を幅広く修得している。</p> <p>②高等学校までの「国語総合（現代文）」や「英語」の履修を通じて、基礎的なコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>③現代社会の問題について、知識や情報をもとに筋道立てて考え、その内容をわかりやすく表現できる。</p> <p>【主体性・協働して学ぶ態度】</p> <p>④クラブ活動、委員会活動や社会奉仕等を通じて、多様な人々と協働して主体的に学ぶ姿勢を身につけている。</p> <p>⑤経済学や経営学の知識及び学内外での様々な体験を社会で活かしたいという目的意識と意欲がある。</p>

学部等名 現代ビジネス学部 国際社会学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/spirit/ ）
<p>（概要）</p> <p>現代ビジネス学部は、21世紀の社会を展望し、グローバル化の進む世界や地域のビジネス組織、すなわち企業、自治体、民間団体などで活躍できる豊かな教養と知識を有する人材を養成する。</p> <p>・現代ビジネス学部国際社会学科は、異文化理解や国際協力に関する知識を身につけ、現代社会のグローバルな変化に対応できる能力を養い、国際社会だけでなく地域社会でも活躍する人材を養成する。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/policy/ ）
<p>（概要）</p> <p>【知識・理解】</p> <p>①人文社会自然科学を基礎とした幅広い教養を身につけている。</p> <p>②国際社会科学や異文化理解の専門的知識及びその活用方法を身につけている。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>③ローカルな視点とグローバルな視点を併せ持ち、現代の経済、社会、文化について論理的に考えて分析し考察することができる。</p> <p>④現代社会の多様なフィールドにおける諸課題の解決に向けて、的確な学際的考察及び総合的判断ができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>⑤現代社会の諸課題に対して自ら積極的に関心をもち続け、現代社会に貢献することができる。</p> <p>⑥自ら課題を探究し、他者と協力しながら自律的、主体的に課題を解決するための意欲と職業的自律を図るための態度を身につけている。</p> <p>【技能・表現】</p> <p>⑦外国語で書かれた資料や書類を理解し、必要な情報を的確に読み取り討論や意見交換を行うことができる。</p> <p>⑧国際コミュニケーションの手段として必要な、英語や韓国語を中心とした国際対話能力を身につけている。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法： http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/policy/ ）
<p>（概要）</p> <p>本学科では、定められたディプロマ・ポリシーを達成するため、以下のように教育課程を編成します。</p> <p>(1) 共通教育科目では、教養教育を担うため全学部共通で設定しており、大学での学修の基礎となる知識やスキル、そして豊かな人間性と高い教養を身につけるべく、4つの科目群に区分します。</p> <p>(2) 専門教育科目では、専門教育科目を基礎科目群、基幹科目群、コース科目群、関連科目群、演習群の5つに科目群区分します。</p> <p>①基礎科目群では、グローバル化の進む経済社会、地元北九州の地域特性についての知識を修得させるために、「グローバル経済と生活」、「北九州学」を必修として配置します。また、PBL型の教育により地域の諸課題の解決策を学生に考えさせることで課題発見力、プレゼンテーション能力、課題へのアプローチ方法、実践力等を身につけるべく、「プラン&プラティクス」を配置します。本科目群は、DP（知識・理解）／（思考・判断）／（関心・意欲・態度）／（技能・表現）に強く関連します。</p> <p>②基幹科目群では、英語運用能力を向上させるためにe-ラーニング授業「PC English Training I」を必修科目として配置します。また、「国際社会入門Ⅰ・Ⅱ」を学科の必修科目として配置します。さらに国際社会を理解するために「国際関係論」、「国際マーケティング論」、「異文化コミュニケーション論」等を配置し、国際社会科学の各学問領域における専門的基礎知識を体系的に修得します。本科目群は、DP（知識・理解）／（思考・判断）／に強く関連します。</p> <p>③コース科目群では、国際社会の具体的な問題解決を行い、各学問領域における専門</p>

知識を現場で応用できるよう、各コースで必要とされる専門科目を必修化し、それに関連する科目を学問系列ごとに分けて3つのコース科目として配置します。学生は3つのコース「英語コース」、「ハングルコース」、「国際コース」のいずれかに所属します。なお、所属のコース科目で生まれた新たな関心・意欲に応え、幅広い学問領域における専門知識を体系的に修得するため、他のコース科目の履修を推奨します。本科目群は、DP（知識・理解）／（思考・判断）／（関心・意欲・態度）に強く関連します。

④関連科目群では、教員免許取得に必要な科目やコミュニケーションスキルを養うための科目等を配置します。本科目群は、DP（知識・理解）／（技能・表現）に強く関連します。

⑤演習群では、それまで修得できた知識やスキルを統合するとともにコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、課題発見力、課題解決力等を養成するため、必修科目として「専門演習Ⅰ～Ⅳ」を配置し、学修の集大成として「卒業研究」を配置します。本科目群は、DP（知識・理解）／（思考・判断）／（関心・意欲・態度）／（技能・表現）に強く関連します。

（3）特別教育科目では、学生の将来の進路を支援するために特別に置かれている科目です。「スポーツ特別教育科目」を体系的に配置します。本科目は、DP（知識・理解）／（思考・判断）／（関心・意欲・態度）／（技能・表現）に強く関連します。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/policy/>）

（概要）

【知識・技能】

- ①高等学校の教育課程を幅広く修得している。
- ②高等学校までの「国語総合（現代文）」や「英語」の履修を通じて、基礎的なコミュニケーション能力を身につけている。

【思考・判断・表現】

- ③現代社会の問題について、知識や情報をもとに筋道立てて考え、その内容をわかりやすく表現できる。

【主体性・協働して学ぶ態度】

- ④クラブ活動、委員会活動や社会奉仕等を通じて、多様な人々と協働して主体的に学ぶ姿勢を身につけている。
- ⑤国際社会科学や異文化理解の知識及び学内外での様々な体験を社会で活かしたいという目的意識と意欲がある。

学部等名 経済学部 経済学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/spirit/ ）
<p>（概要）</p> <p>経済学部は、経済学及び経営学の専門的・体系的知識に基づく基礎的な思考力を修得させ、もって時代の変化に適切に対応し、バランスある社会の発展に貢献する、理論と実践両面に明るい人材を養成することを目的とする。</p> <p>・経済学部経済学科は、時代、地域社会、国際社会から求められる経済学の基礎的知識を修得させ、経済学的視点から課題を発見し解決することができ、かつ対話を通じて互いの認識を共有できる人材を養成する。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/policy/ ）
<p>（概要）</p> <p>【知識・理解】</p> <p>①人文社会自然科学を基礎とした幅広い教養を身につけている。</p> <p>②経済学の専門的知識及びその活用方法を身につけている。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>③ローカルな視点とグローバルな視点を併せ持ち、現代の経済、社会、文化について論理的に考えて分析し考察することができる。</p> <p>④現代社会の多様なフィールドにおける諸課題の解決に向けて、的確な学際的考察及び総合的判断ができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>⑤地域社会の諸課題に対して自ら積極的に関心をもち続け、地域社会に貢献することができる。</p> <p>⑥多様な人々との交流、連携、協働を通じて、社会人として成長し続ける意欲と態度を身につけている。</p> <p>【技能・表現】</p> <p>⑦自己の思考・判断のプロセス及び結果を他者にわかりやすくプレゼンテーションできる。</p> <p>⑧良好な人間関係を構築するためのコミュニケーション能力を身につけている。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法： http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/policy/ ）
<p>（概要）</p> <p>本学科では、定められたディプロマ・ポリシーを達成するため、以下のように教育課程を編成します。</p> <p>(1) 共通教育科目では、教養教育を担うため全学部共通で設定しており、大学での学修の基礎となる知識やスキル、そして豊かな人間性と高い教養を身につけるべく、4つの科目群に区分します。</p> <p>(2) 専門教育科目では、専門教育科目を基礎的科目群、発展及び応用科目群、コース科目群、特殊講義科目群、演習群の5つに科目群に区分します。</p> <p>①基礎的科目群では、経済学の基礎となるべき知識を修得させるために、「ミクロ経済学入門」、「マクロ経済学入門」を必修として配置します。本科目群は、DP（知識・理解）／（技能・表現）に強く関連します。</p> <p>②発展及び応用科目群では、各学問領域における専門科目を4つの系統に分けます。経済理論科目には、「日本経済のしくみ」、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」等を、国際経済科目には、「国際金融論」、「国際経済学」等を、経済制度・歴史科目には、「経済史入門」、「経済政策論」等を、経営科目には、「経営学入門」、「会計学Ⅰ」等をそれぞれ配置し専門的知識を体系的に修得します。本科目群は、DP（知識・理解）／（思考・判断）に強く関連します。</p> <p>③コース科目群では、現代社会の具体的な問題解決を行い、各学問領域における専門知識を現場で応用できるよう、各コースで必要とされる専門科目を必修化し、それに関連する科目を学問系列ごとに分けて3つのコース科目を配置します。コース科目を希望する学生は、「地域づくりコース」、「企業人養成コース」、「ビジネスアスリートコース」を選択することができます。なお、コース科目で生まれた新たな関心・意欲に応え、幅広い学問領域における専門知識を体系的に修得するため、</p>

<p>他のコース科目の履修を推奨します。本科目群は、DP（知識・理解）／（思考・判断）／（関心・意欲・態度）に強く関連します。</p> <p>④特殊講義科目群では、現代の社会問題を経済学の視点で理解するため、「経済学特殊講義1～6」等の科目を配置します。本科目群は、DP（知識・理解）／（技能・表現）に強く関連します。</p> <p>⑤関連科目群では、教員免許取得に必要な科目やコミュニケーションスキルを養うための科目等を配置します。本科目群は、DP（知識・理解）／（技能・表現）に強く関連します。</p> <p>⑥演習群では、これまで修得できた知識やスキルを統合するとともにコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、課題発見力、課題解決力等を養成するため、「経済演習Ⅰ・Ⅱ」、「総合演習Ⅰ・Ⅱ」を配置し、学修の集大成として「卒業研究」を配置します。本科目群は、DP（知識・理解）／（思考・判断）／（関心・意欲・態度）／（技能・表現）に強く関連します。</p> <p>(3) 特別教育科目では、学生の将来の進路を支援するために特別に置かれている科目です。「外国語特別教育プログラム」と「スポーツ特別教育科目」を体系的に配置します。本科目は、DP（知識・理解）／（思考・判断）／（関心・意欲・態度）／（技能・表現）に強く関連します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p>【知識・技能】</p> <p>①高等学校の教育課程を幅広く修得している。</p> <p>②高等学校までの「国語総合（現代文）」や「英語」の履修を通じて、基礎的なコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>③現代社会の問題について、知識や情報をもとに筋道立てて考え、その内容をわかりやすく表現できる。</p> <p>【主体性・協働して学ぶ態度】</p> <p>④クラブ活動、委員会活動や社会奉仕等を通じて、多様な人々と協働して主体的に学ぶ姿勢を身につけている。</p> <p>⑤経済学の知識及び学内外での様々な体験を社会で活かしたいという目的意識と意欲がある。</p>

学部等名 経済学部 経営学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/spirit/ ）
<p>（概要）</p> <p>経済学部は、経済学及び経営学の専門的・体系的知識に基づく基礎的な思考力を修得させ、もって時代の変化に適切に対応し、バランスある社会の発展に貢献する、理論と実践両面に明るい人材を養成することを目的とする。</p> <p>・経済学部経営学科は、経営学の体系的知識及びそれに関する能力を修得させ、もって企業・地域社会において活躍できる経営に関する実践的スキルを持った人材を養成する。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/policy/ ）
<p>（概要）</p> <p>【知識・理解】</p> <p>①人文社会自然科学を基礎とした幅広い教養を身につけている。</p> <p>②経営学の専門的知識及びその活用方法を身につけている。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>③ローカルな視点とグローバルな視点を併せ持ち、現代の経済、社会、文化について論理的に考えて分析し考察することができる。</p> <p>④マネジメントの多様なフィールドにおける諸課題の解決に向けて、的確な学際的考察及び総合的判断ができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>⑤地域社会の諸課題に対して自ら積極的に関心をもち続け、地域社会に貢献することができる。</p> <p>⑥多様な人々との交流、連携、協働を通じて、社会人として成長し続ける意欲と態度を身につけている。</p> <p>【技能・表現】</p> <p>⑦自己の思考・判断のプロセス及び結果を他者にわかりやすくプレゼンテーションできる。</p> <p>⑧良好な人間関係を構築するためのコミュニケーション能力を身につけている。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法： http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/policy/ ）
<p>（概要）</p> <p>本学科では、定められたディプロマ・ポリシーを達成するため、以下のように教育課程を編成します。</p> <p>(1) 共通教育科目では、教養教育を担うため全学部共通で設定しており、大学での学修の基礎となる知識やスキル、そして豊かな人間性と高い教養を身につけるべく、4つの科目群に区分します。</p> <p>(2) 専門教育科目では、専門教育科目を基礎的科目群、発展及び応用科目群、コース科目群、特殊講義科目群、演習群の5つの科目群に区分します。</p> <p>①基礎的科目群では、経営学の基礎となるべき知識を修得させるために、「経営学入門」、「会計学Ⅰ」を必修として配置します。本科目群は、DP（知識・理解）／（技能・表現）に強く関連します。</p> <p>②発展及び応用科目群では、各学問領域における専門科目を4つの系統に分けます。マネジメント科目には、「企業論入門」、「経営組織論」、「企業論」等を、流通・マーケティング科目には、「流通総論」、「マーケティング論」等を、簿記会計科目には、「会計学Ⅱ」、「原価計算Ⅰ」等を、経済科目には、「日本経済のしくみ」、「ミクロ経済学」等をそれぞれ配置し専門的知識を体系的に修得します。本科目群は、DP（知識・理解）／（思考・判断）／に強く関連します。</p> <p>③コース科目群では、現代社会の具体的な問題解決を行い、各学問領域における専門知識を現場で応用できるよう、各コースで必要とされる専門科目を必修化し、それに関連する科目を学問系列ごとに分けて4つのコース科目を配置します。コース科目を希望する学生は、「ビジネスリーダーコース」、「ビジネスアカウンティングコース」、「企業人養成コース」、「ビジネスアスリートコース」を選択することができます。なお、コース科目で生まれた新たな関心・意欲に応え、幅広い学問領域における専門知識を体系的に修得するため、他のコース科目の履修を推奨します。</p>

<p>本科目群は、DP（知識・理解）／（思考・判断）／（関心・意欲・態度）に強く関連します。</p> <p>④特殊講義科目群では、現代の社会問題を経済学の視点で理解するため、「経営学特殊講義1～5」等の科目を配置します。本科目群は、DP（知識・理解）／（技能・表現）に強く関連します。</p> <p>⑤関連科目群では、教員免許取得に必要な科目やコミュニケーションスキルを養うための科目等を配置します。本科目群は、DP（知識・理解）／（技能・表現）に強く関連します。</p> <p>⑥演習群では、これまで修得できた知識やスキルを統合するとともにコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、課題発見力、課題解決力等を養成するため、「経営演習Ⅰ・Ⅱ」、「総合演習Ⅰ・Ⅱ」を配置し、学修の集大成として「卒業研究」を配置します。本科目群は、DP（知識・理解）／（思考・判断）／（関心・意欲・態度）／（技能・表現）に強く関連します。</p> <p>(3) 特別教育科目では、学生の将来の進路を支援するために特別に置かれている科目です。「外国語特別教育プログラム」と「スポーツ特別教育科目」を体系的に配置します。本科目は、DP（知識・理解）／（思考・判断）／（関心・意欲・態度）／（技能・表現）に強く関連します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p>【知識・技能】</p> <p>①高等学校の教育課程を幅広く修得している。</p> <p>②高等学校までの「国語総合（現代文）」や「英語」の履修を通じて、基礎的なコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>③現代社会の問題について、知識や情報をもとに筋道立てて考え、その内容をわかりやすく表現できる。</p> <p>【主体性・協働して学ぶ態度】</p> <p>④クラブ活動、委員会活動や社会奉仕等を通じて、多様な人々と協働して主体的に学ぶ姿勢を身につけている。</p> <p>⑤経営学の知識及び学内外での様々な体験を社会で活かしたいという目的意識と意欲がある。</p>

学部等名 国際関係学部 国際関係学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/spirit/ ）
<p>（概要）</p> <p>国際関係学部は、国際関係学の専門的・体系的知識に基づく基礎的な思考力を修得させるとともに、複雑化、多様化する国際社会のグローバル化に対応しうるグローバル・リテラシー（国際対話能力）を備えた人材を養成することを目的とする。</p> <p>・国際関係学部国際関係学科は、国際コミュニケーションの手段としての言語能力と総合的な国際教養を基礎として、豊かで個性的な人間性、自己開発能力、国際的視野を持ちフィールドワークを通して実践する能力、文化の違いを認識しつつ協調を図る能力、問題発見と解決能力を併せ持つ人材を養成する。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/policy/ ）
<p>（概要）</p> <p>【知識・理解】</p> <p>①人文社会自然科学を基礎とした幅広い教養を身につけている。 ②国際関係学や異文化理解の専門的知識及びその活用方法を身につけている。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>③ローカルな視点とグローバルな視点を併せ持ち、現代の経済、社会、文化について論理的に考えて分析し考察することができる。④現代社会の多様なフィールドにおける諸課題の解決に向けて、的確な学際的考察及び総合的判断ができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>⑤現代社会の諸課題に対して自ら積極的に関心をもち続け、現代社会に貢献することができる。 ⑥自ら課題を探究し、他者と協力しながら自律的、主体的に課題を解決するための意欲と職業的自律を図るための態度を身につけている。</p> <p>【技能・表現】</p> <p>⑦外国語で書かれた資料や書類を理解し、必要な情報を的確に読み取り討論や意見交換を行うことができる。 ⑧国際コミュニケーションの手段として必要な、英語や韓国語を中心とした国際対話能力を身につけている。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/policy/ ）
<p>（概要）</p> <p>本学科では、定められたディプロマ・ポリシーを達成するため、以下のように教育課程を編成します。</p> <p>（1）共通教育科目では、教養教育を担うため全学部共通で設定しており、大学での学修の基礎となる知識やスキル、そして豊かな人間性と高い教養を身につけるべく、4つの科目群に区分します。</p> <p>（2）専門教育科目では、専門教育科目を入門科目群、基幹科目群、展開科目群、コース科目群、特殊講義科目群、資格科目群、実務科目群、関連科目群、実習科目群、プロジェクト研究科目群に区分します。</p> <p>①入門科目群では、国際関係学の基礎知識を修得させるために、「基礎セミナーⅠ～Ⅱ」、「国際関係学入門Ⅰ～Ⅱ」等を必修として配置します。またコースの入門科目及びコミュニケーション関連科目を選択科目として配置します。本科目群は、DP（知識・理解）／（関心・意欲・態度）／（技能・表現）に強く関連します。</p> <p>②基幹科目群では、国際関係学の専門分野を理解するために、「国際政治学」、「国際経済学」等を配置します。本科目群は、DP（知識・理解）／（思考・判断）に強く関連します。</p> <p>③展開科目群では、国際関係科目系と言語科目系に専門科目を分けます。国際関係科目系には、「アジア概論」、「国際関係史」等を、言語科目系には、「中国語会話」、「ビジネス中国語」をそれぞれ配置し専門的知識を体系的に修得します。本科目群は、DP（知識・理解）／（思考・判断）に強く関連します。</p> <p>④コース科目群では、各学問領域における専門知識を現場で応用できるよう、専門科目を学問系列ごとに分けて4つのコース系科目として配置します。学生は4つのコ</p>

ース系「英語系」、「ハングル系」、「観光ビジネス系」「国際協力系」を選択することができます。なお、所属のコース科目で生まれた新たな関心・意欲に応え、幅広い学問領域における専門知識を体系的に修得するため、他のコース科目の履修を推奨します。本科目群は、DP（知識・理解）／（思考・判断）／（関心・意欲・態度）に強く関連します。

- ⑤特殊講義科目群では、現代の社会問題を学問の視点で理解するための科目「国際関係特殊講義Ⅰ～Ⅵ」を配置します。本科目群は、DP（知識・理解）／（技能・表現）に強く関連します。
 - ⑥資格科目群では、資格取得に知識や技能を養うための科目「資格検定講座Ⅰ～Ⅵ」を配置します。本科目群は、DP（知識・理解）／（技能・表現）に強く関連します。
 - ⑦実務科目群では、秘書実務等実践的なスキルを養うための科目「秘書実務」等を配置します。本科目群は、DP（知識・理解）／（技能・表現）に強く関連します。
 - ⑧関連科目群では、教員免許取得に必要な科目やコミュニケーションスキルを養うための科目等を配置します。本科目群は、DP（知識・理解）／（技能・表現）に強く関連します。
 - ⑨実習科目群では、学外での体験的な学習と実践する場として、海外での語学実習や国内外でのボランティア活動等を行う「海外語学実習」、「海外社会実習」、「国内社会実習」等を配置します。本科目群は、DP（知識・理解）／（思考・判断）／（関心・意欲・態度）／（技能・表現）に強く関連します。
 - ⑩プロジェクト研究科目群では、これまで修得できた知識やスキルを統合するとともにコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、課題発見力、課題解決力等を養成するため、必修科目として「プロジェクト研究入門Ⅰ・Ⅱ」、「プロジェクト研究基礎Ⅰ・Ⅱ」を配置し、学修の集大成として「卒業プロジェクト研究」を配置します。本科目群は、DP（知識・理解）／（思考・判断）／（関心・意欲・態度）／（技能・表現）に強く関連します。
- (3) 特別教育科目では、学生の将来の進路を支援するために特別に置かれている科目です。「スポーツ特別教育科目」を体系的に配置します。本科目は、DP（知識・理解）／（思考・判断）／（関心・意欲・態度）／（技能・表現）に強く関連します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/policy/>)

(概要)

【知識・技能】

- ①高等学校の教育課程を幅広く修得している。
- ②高等学校までの「国語総合（現代文）」や「英語」の履修を通じて、基礎的なコミュニケーション能力を身につけている。

【思考・判断・表現】

- ③現代社会の問題について、知識や情報をもとに筋道立てて考え、その内容をわかりやすく表現できる。

【主体性・協働して学ぶ態度】

- ④クラブ活動、委員会活動や社会奉仕等を通じて、多様な人々と協働して主体的に学ぶ姿勢を身につけている。
- ⑤国際関係学や異文化理解の知識及び学内外での様々な体験を社会で活かしたいという目的意識と意欲がある。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/information/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
法学部	—	9人	5人	0人	4人	0人	18人
現代ビジネス学部	—	21人	16人	0人	6人	0人	43人
経済学部	—	1人	0人	0人	0人	0人	1人
国際関係学部	—	1人	0人	0人	0人	0人	1人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			50人				50人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： http://www.kiu.ac.jp/academicpursuits/propulsion/achievement/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本学では、教育の質的向上に向けた全学的な教育支援政策の企画・開発及びFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の推進・支援を行うため、FD委員会を設置しています。</p> <p>FD委員会では、毎年FD計画（年間計画）を策定し、教育の質的向上のため、カリキュラムマネジメントの運用方法、PROGテスト結果に基づく学生指導方法、高大接続に関する内容、本学教務システムの活用方法等に関する研修会を行っています。また、授業の内容及び方法を改善するため、学生に対し、各学期末に授業評価アンケートを実施し、アンケートの分析結果は、FD委員会で対策を講じるとともに大学のホームページ上で公表しています。教員相互の授業参観も定期的の実施するなど授業改善に取り組んでいます。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
法学部	150人	163人	108.7%	630人	626人	99.4%	-人	-人
現代ビジネス学部	350人	393人	112.3%	1,050人	1,131人	107.7%	-人	-人
経済学部	-人	-人	-%	280人	254人	90.7%	-人	-人
国際関係学部	-人	-人	-%	140人	94人	67.1%	-人	-人
合計	500人	556人	111.2%	2,100人	2,105人	100.2%	-人	-人
(備考) 経済学部及び国際関係学部は平成29年4月より学生募集停止。								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
法学部	96人 (100%)	1人 (1.0%)	81人 (84.4%)	14人 (14.6%)
経済学部	190人 (100%)	3人 (1.6%)	153人 (80.5%)	34人 (17.9%)
国際関係学部	63人 (100%)	0人 (0%)	44人 (69.8%)	19人 (30.2%)
合計	349人 (100%)	4人 (1.1%)	278人 (79.7%)	67人 (19.2%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
【建設業】 JR九州コンサルタンツ(株)/日鉄テックスエンジ(株)/TOTOアクアエンジ(株)/パナソニックES建設エンジニアリング(株)/(株)中園/(株)MDI/西部ガス設備工業(株)				
【不動産業】 (株)グローバルマーケット/(株)不動産中央情報センター/トラストホールディングス(株)/(株)アンサー倶楽部/(株)不動産のデパートひろた				
【製造業】 (食料品・飲料) フンドーキン醤油(株)/旭酒造(株)/(木材・家具) アイリスオーヤマ(株)/中国木材(株)/(化学・パルプ) 大石産業(株)/小倉合成工業(株)/日進化学(株)/(ゴム) 内山工業(株)/(プラスチック) (株)タカギ/岩下エンジニアリング(株)/(鉄鋼・金属製品) (株)アステック入江/吉川工業(株)/信和鋼板(株)/新日鐵住金ステンレス(株)/東海カラー(株)/(株)アルミネ/(株)三井スタンピング/(株)中島ターレット/石川金属工業(株)/(業務用機械) 三浦工業(株)/上野精機(株)/ホシデン九州(株)/トヨタ自動車九州(株)/(株)東海理化電機製作所/(株)ジャクエツ/信号器材(株)				
【生活インフラ】 (株)トーニチ/山口合同ガス(株)/西部ガス(株)/(株)近代プラント				
【輸送業】 (株)スターフライヤー/ANA沖縄空港(株)/山九(株)/(株)マルハニチロ物流/(株)九州日新/(株)ジェネック				
【卸売業】 寒川商事(株)/不二貿易(株)/西日本フード(株)/トーホーグループ/(株)もち吉/シャネル(株)/タキゲン製造(株)/小野建(株)/テラダ産業(株)/リコージャパン(株)/リックス(株)/(株)ウエノ/(株)ドーワテクノス/渡辺パイプ(株)/菱信産業(株)				
【小売・流通業】 (株)ナフコ/エフコープ生活協同組合/(株)セブンイレブン・ジャパン/(株)海星ムサシ/(株)益正グループ/トヨタカローラ山口(株)/トヨタカローラ博多(株)/トヨタカローラ福岡(株)/ネットトヨタ福岡(株)/ネットトヨタ北九州(株)/(株)あさひ/(株)ビッグモーター/九州三菱自動車販売(株)/西九州トヨタ自動車(株)/福岡トヨタ自動車(株)/(株)コメリ/(株)福岡九州クボタ/西部ガスリアルライフ北九州(株)/ダイレックス(株)/(株)コスモス薬品/(株)サンキュードラッグ/(株)タカミヤ/三角商事(株)				
【金融・保険業】 (株)鹿児島銀行/(株)西京銀行/遠賀信用金庫/鹿児島信用金庫/鹿児島相互信用金庫/大分みらい信用金庫/唐津信用金庫/福岡ひびき信用金庫/KOYO証券(株)/いちよし証券(株)/日本生命保険相互会社				
【出版業】 (株)日刊スポーツ新聞西日本				
【情報通信業】 JR九州システムソリューションズ(株)				
【各種サービス業】 九州労災病院/社会福祉法人日本傷痍者更生会/三菱電機ビルテクノサービス(株)/ALSOK福岡(株)/(株)コアズ/(株)セノン/総合警備保障(株)/(株)カナモト/(株)タップカンパニー/アイ・ケイ・ケイ(株)/(株)サンレー/(株)ビケンテクノ				
【複合サービス業】 佐賀県農業協同組合/糸島農業協同組合/田川農業協同組合/島根県農業協同組合/日本郵便(株)/北九州農業協同組合				
【学校教育】 勝山中学校/下関商業高等学校/常磐高等学校/精華女子高等学校/九州産業大学附属九州高等学校/日南学園高等学校/博多高等学校/東海大学付属福岡高等学校/東鷹高等学校/北九州市立長尾小学校				

<p>【非営利団体】 三重県体育協会/日本・インドネシア経済協力事業協会/北九州商工会議所</p> <p>【公務】 航空自衛隊/陸上自衛隊/下関市役所/熊本県警察本部/鹿児島県警察本部/福岡県警察本部/福岡県庁(警察行政)/北九州市役所/ (http://www.kiu.ac.jp/career/career_about/naitei_torikumi/parents/)</p>
(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
法学部	116人 (100%)	87人 (75%)	12人 (10.3%)	17人 (14.7%)	－人 (－%)
経済学部	229人 (100%)	169人 (73.8%)	22人 (9.6%)	38人 (16.6%)	－人 (－%)
国際関係学部	75人 (100%)	50人 (66.7%)	8人 (10.7%)	17人 (22.7%)	－人 (－%)
合計	420人 (100%)	306人 (72.9%)	42人 (10%)	72人 (17.1%)	－人 (－%)

(備考)

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲】 授業計画書（シラバス）は、教務委員会において開講前年度の9月以降に次年度開講科目の調整を行った後、シラバス作成要領等の検討を行っています。 その後、1月に教員は各項目における記入上の注意事項等を纏めた「シラバス作成について（記載要領）」に基づいて、KIUポータルに学生が理解しやすいように作成することとしています。 各科目担当教員が授業計画書（シラバス）を作成したのち、教務部長及び教務委員が記載内容等について確認を行い、3月に公開しています。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲】 本学では、以下のようにディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）を策定しています。 本学の建学の理念である「塾的精神」による人材養成を基本理念とし、学則第1条に定める北九州の地域に立脚し、国際的視野を持った理論・実践両面に明るい人材を養成することを目的としています。本学の課程を修め、124単位の単位取得と必修等の条件を充たした上で、以下の項目を体系的に修得した者に学位を授与します。 【知識・理解】 ①人文社会自然科学を基礎とした幅広い教養を身につけている。 ②学位の専攻分野の専門的知識と技能を身につけている。</p>
--

【思考・判断】

③幅広い教養と専門分野の知識から論理的に考える能力を修得しており、その知識を使って現代社会の問題を分析し考察することができる。

④現代社会の多様なフィールドにおける諸課題の解決に向けて、的確な学際的考察及び総合的判断ができる。

【関心・意欲・態度】

⑤現代社会の諸課題に対して自ら積極的に関心をもち続け、現代社会に貢献することができる。

⑥グループで協力しながら問題を解決する態度、生涯学び続け成長し続ける意欲を修得している。

【技能・表現】

⑦必要な情報を幅広く収集し、的確に整理・分析することができる。

⑧グローバル化した現代社会において、活躍できる高度なコミュニケーション能力を身につけている。

ディプロマ・ポリシーは、本学大学ホームページ上に掲載しているほか、大学案内、募集要項、入学後学生に配布される学生便覧等に掲載し、周知しています。

ディプロマ・ポリシーに示した能力を卒業生が修得できているか、教育課程表が適切に機能しているか点検・評価するために、アセスメント・ポリシーを策定しています。

本学の卒業要件については、全学部とも、本学に4年以上在学し、各学部の教育課程に従い、124単位以上を修得しなければなりません。

卒業判定については、卒業要件を充足した学生について、教務委員会において対象者の原案を作成し、教授会で意見を聴取したうえで、学長が卒業を認定し、卒業証書・学位記を授与しています。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
法学部	法律学科	124 単位	有	48 単位
現代ビジネス学部	地域経済学科	124 単位	有	48 単位
	国際社会学科	124 単位	有	48 単位
経済学部	経済学科	124 単位	有	48 単位
	経営学科	124 単位	有	48 単位
国際関係学部	国際関係学科	124 単位	有	48 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <http://www.kiu.ac.jp/about/campasmap/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
法学部	法律学科	600,000 円	100,000 円	280,000 円	
現代ビジネス学部	地域経済学科	600,000 円	100,000 円	280,000 円	
	国際社会学科	600,000 円	100,000 円	280,000 円	
経済学部	経済学科	600,000 円	- 円	240,000 円	
	経営学科	600,000 円	- 円	240,000 円	
国際関係学部	国際関係学科	600,000 円	- 円	240,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>修学面での支援では、各学年に演習が開設され、各ゼミ担当教員による会議を行い、担当学生の対応についての話し合いを行っています。</p> <p>1年次の「入門セミナー」では、1学期に2～4回の会議を開催、担当学生の動向について発表し、情報を共有しています。2年次演習、3年次演習では、1学期1回の会議において、担当学生の情報を共有するよう努め、学生が進級する際には、ゼミ担当教員同士で学生の情報を共有しています。基礎教育センターに学修生活アドバイザーを配置し、学修面、生活面の問題についてアドバイスをを行っています。</p> <p>成績不振者を対象とした成績相談会は、毎年各学期開始時に実施し、保護者面談会は、毎年秋学期開始時に実施（本学及び県外2会場）しています。学生・保護者と教員が面談することにより、成績や単位取得状況の把握や今後の改善点を確認します。</p> <p>なお、成績不振者に対しては、基礎教育センターでの学生個人に合わせた学習方法等に対する手厚いサポートを実施しています。</p> <p>その他、同一科目を複数で担当する場合、担当教員で各担当講義の進捗状況の確認や担当学生の動向について情報の共有を図っています。</p> <p>経済面での支援では、学内の奨学金制度を充実させると共に、学外奨学金制度についてもその活用の周知を図ることにより、学生の経済的基盤確保に積極的に取り組んでいます。</p> <p>学内の奨学金には、給与型奨学金と貸与型奨学金があり、給与型には、学術奨学金や大学院奨学金その他、入学試験結果の成績優秀者に対する奨学金制度、自然災害による被災学生に対する授業料等減免制度、経済的に困窮している学生に対する奨学金制度、体育会系学生に対するスポーツ奨学金制度を設けています。</p> <p>貸与型は、経済的事由により著しく修学に困難をきたした者に対して、学資を貸与して学業を継続させるためのもので、学外奨学金としては、主に日本学生支援機構や地方公共団体の奨学金制度の活用を促しており、本学同窓会からの給与型奨学金も用意されています。</p> <p>奨学金制度の充実により、保護者及び学生の経済的負担の軽減を図り、学生が学業に専念し、学生の本分に則した大学生活を送れるよう取り組んでいます。</p> <p>http://www.kiu.ac.jp/campuslife/shogaku/</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>キャリア支援室には5名のスタッフのほかに、「就職アドバイザー」2名が常駐しています。就職に関するどんな悩みでも受け付けています。また、キャリア支援室では、4年間の学びを社会において役立てるために、さまざまな支援行事を積極的に展開しています。</p> <p>■ゼミ出前講座（5月）</p> <p>3年生のゼミで、現在の雇用情勢や就職活動の基本事項をレクチャーします。併せて、進路登録カードの記入やモバイルメール登録、就活ナビ登録など就職活動に必要な手続きを行います。</p>

<p>■リクナビ・マイナビ活用講座（5月） 就活ナビの活用術をはじめ、オープンエントリーシートの概要説明も行います。</p> <p>■1.2年生のための就職活動ガイダンス（7月） 将来の就職活動に向け、大学生活の送り方や大学生として身につけておきたい基本姿勢についてレクチャーします。</p> <p>■SPI就職試験対策テスト（9月） 就職試験で出題される一般常識や言語・非言語問題を本番形式で受験し、現時点の実力を正確に把握します。受験者にはキャリア系科目の講義と連携し問題解説は、参加者には「最重要頻出問題集」を配付します。</p> <p>■業界研究セミナー（11月） 様々な業界から人事担当者を招いて、仕事内容についてレクチャーしてもらいます。就職活動を本格的に始動する前に、職業理解を深める業界研究は必要不可欠です。</p> <p>■OpenES 攻略講座（1月） 多くの企業が導入しているオープンエントリーシートの書き方を人事の目線で指導していきます。最終的には履歴書が各自で作成できるようになります。</p> <p>■筆記試験、面接試験攻略講座（2月） 就職活動に必要な基本的スキルを高めるため、筆記試験対策、履歴書の書き方、面接対策等を実施します。</p> <p>■就勝ステップアップ研修（2月） 就職戦線に備え、2日間の集中研修を実施します。グループディスカッション、グループ面接、個人面接等の各種面接対策に重点をおいた実践的なプログラムを実施します。</p> <p>■女子学生限定・就活のためのヘアメイク講座（2月） 就活メイクは、面接官に好印象を与えるとても重要な鍵になります。ヘアメイク講座では、清潔感あふれる身だしなみをベースにした「就活メイク」をトレーニングします。 (http://www.kiu.ac.jp/career/career_about/naitei_torikumi/)</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>（概要） 学生の心身の健康保持・増進、安全・衛生面への配慮として、保健室とやわらかカフェ（学生相談室）を設けています。保健室では、健康診断及び事後措置等の通常の保健室業務の他、健康教育や相談業務を中心とした活動を行っています。 健康診断では、受診率のアップと健康診断結果に基づく事後指導の徹底を重点的に行っています。やわらかカフェは、カウンセラー（臨床心理士）を配置し、心身ともに健康な学生生活の寄与に取り組んでいます。 (http://www.kiu.ac.jp/campuslife/counseling/)</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：http://www.kiu.ac.jp/about/kiuabout/information/</p>
